

聖隷浜松病院視察報告

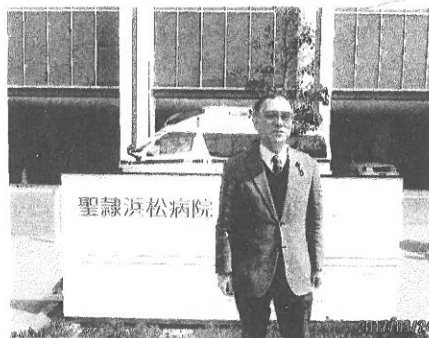
全国にわたって病院・訪問看護ステーションから保健・健診事業、高齢者に対する特別養護老人ホームを始め在宅・福祉サービス事業、更に保育所、子ども園、そして障がい者への支援事業等トータルな福祉事業を展開している聖隷福祉事業団が運営している病院の一つである聖隷浜松病院を訪れました。

浜松病院の病院理念は“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りを持つ”。病床 750 床の高度医療を行う病院です。

1 日の平均入院患者 697 人、1 日の外来患者 1622 人、病床利用率 93.7%、救急車搬入件数 6576 件、紹介率 66.9%、逆紹介率 71.6%です。医療人材として医師は後期研修医（50～60 人）を含めて常勤医 225 人、初期研修医 32 人、看護師 858 人、助産師 107 人とのこと。

地域医療についてお伺いしました。

聖隷浜松病院を中心にして“後方連携”のシステムを造っていくことが主要な課題とのこと。今“肺炎の地域連携パス”を試験的に実施中。又、病院内に“退院支援看護師”を専従としておき連携を推進。平成 28 年からはこれまでの 1 病院 1 名から 2 病棟 1 名の割合で専従看護師を置いての対応（診療報酬加算もあるようになったので）。



総合周産期母子医療センターでは高度医療から一般医療まで看ているとのこと。産科部門は医師 19 人、M F I C U 15 床、一般 28 床で分娩 1750 件。新生児部門は医師 12 人、N I C U 21 床、G C U 21 床で入院 628 人の実績を造っています。

聖隷事業団でトータルな体制が取られていますが患者さんに対応していくには市全体の医療機関間の連携が必要とのこと。浜松市内の高度救急病院 4 病院、一般救急 3 病院そして療養病院と診療所、各事業所との連携を創っていく大切さが語られました。ただ合併した市内には 3 医師会が存在。現在は各医療圏内で対応しているが市全体でどうやっていくかも課題の一つであると語っていました。

浜松市内の病床機能についても説明を受けました。現状と 2025 年の必要病床については、高度救急は現状 836 床で 2025 年必要病床 889 床へ。救急病床：2001 床から 2096 床へ。回復期病床：1389 床から 1588 床へ。慢性期病床：2096 床から 1497 床へ。在宅は 6460 から 9652 へ。在宅をどう作り上げていくかが最大の課題であると浜松市内の課題を語ってくれました。

市全体としての訪問診療・訪問看護・訪問介護との連携が語られなかったが、医師と看護師・介護士との地域医療への共通目標をどう作っていくかが課題ではないかと思われました。千葉県においても確立されていない課題です。